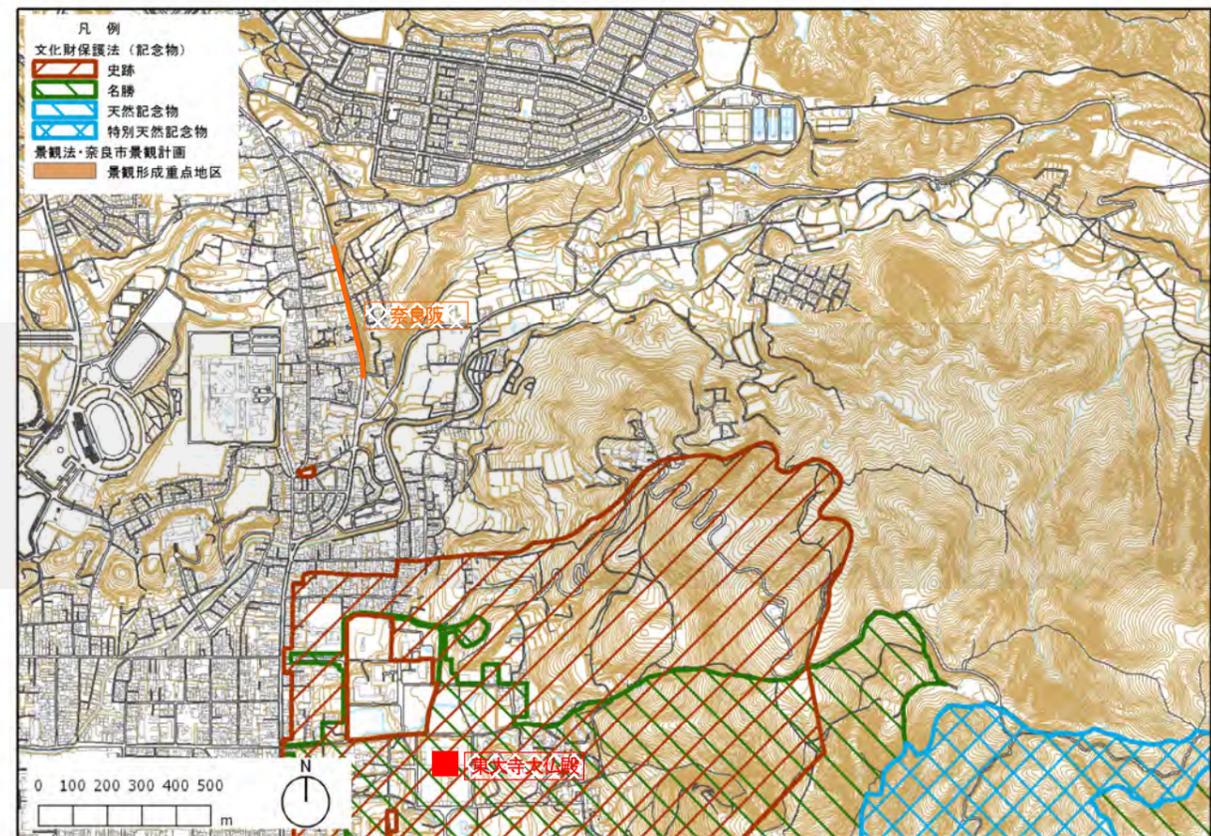
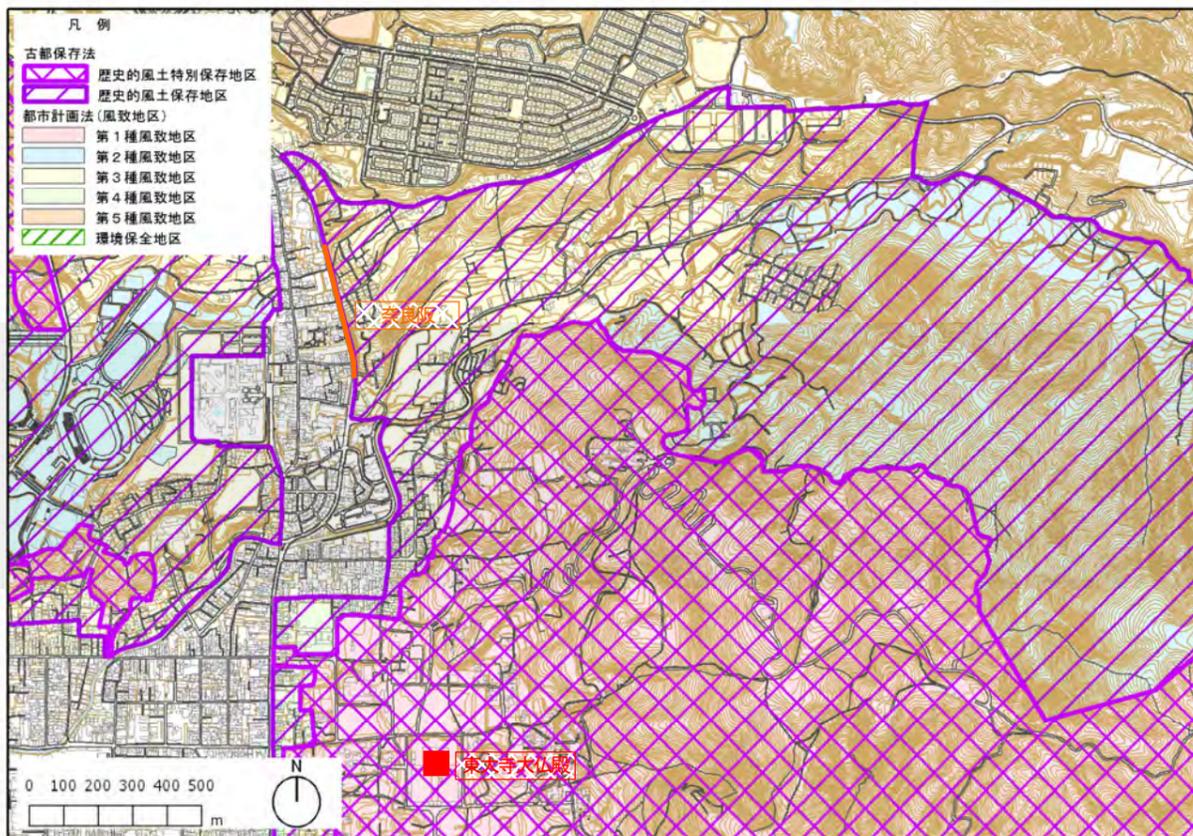
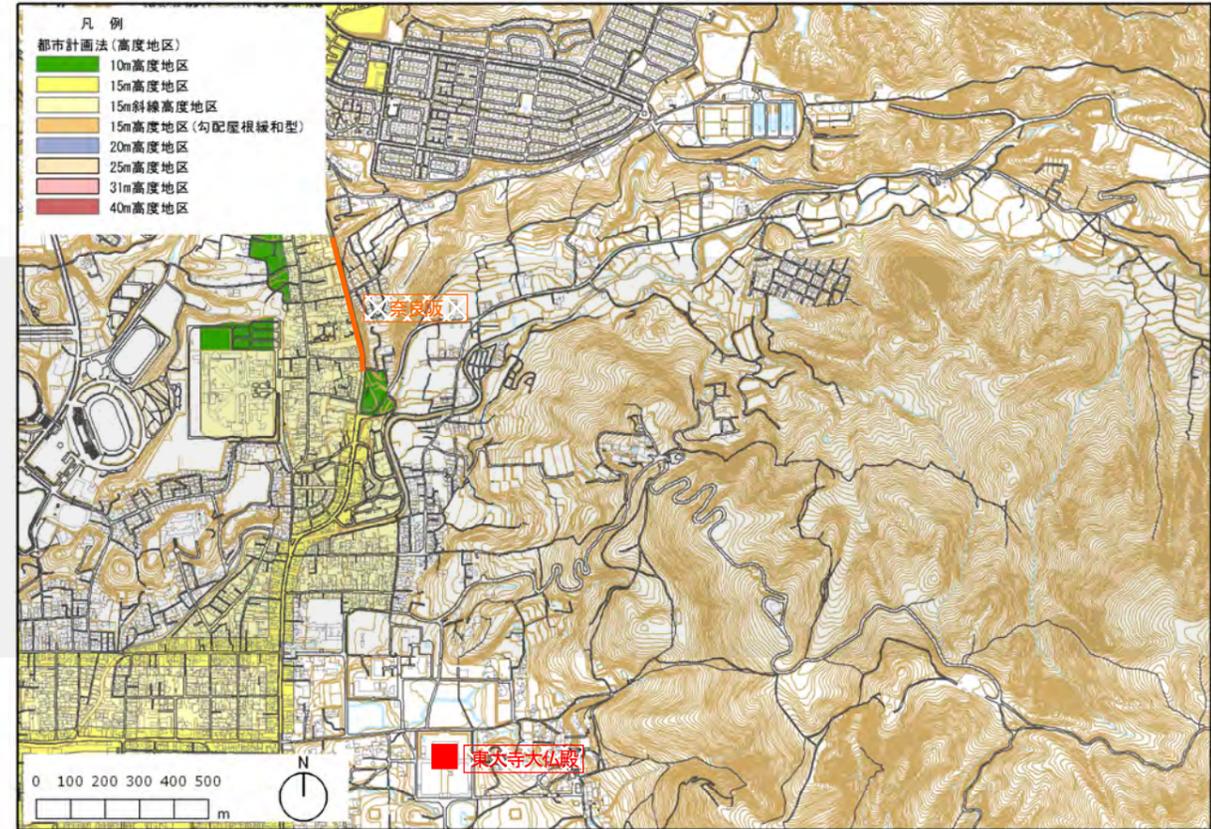
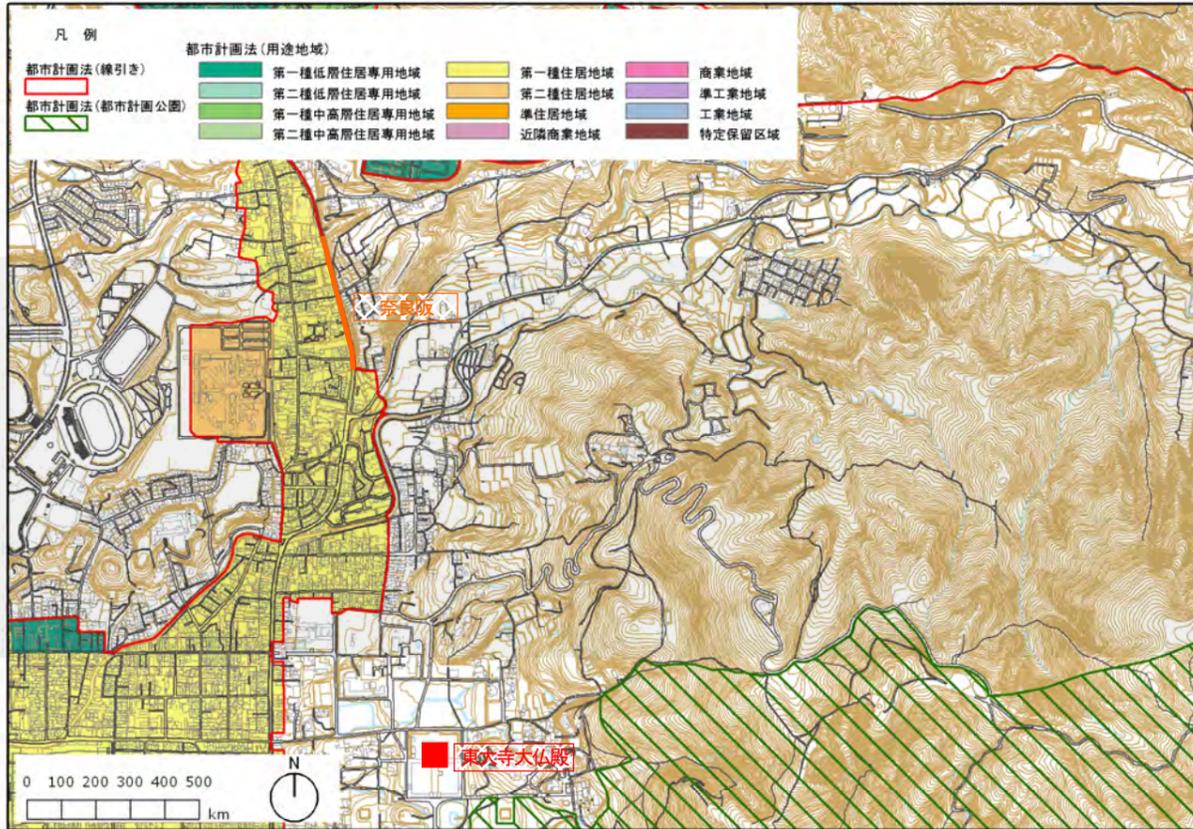


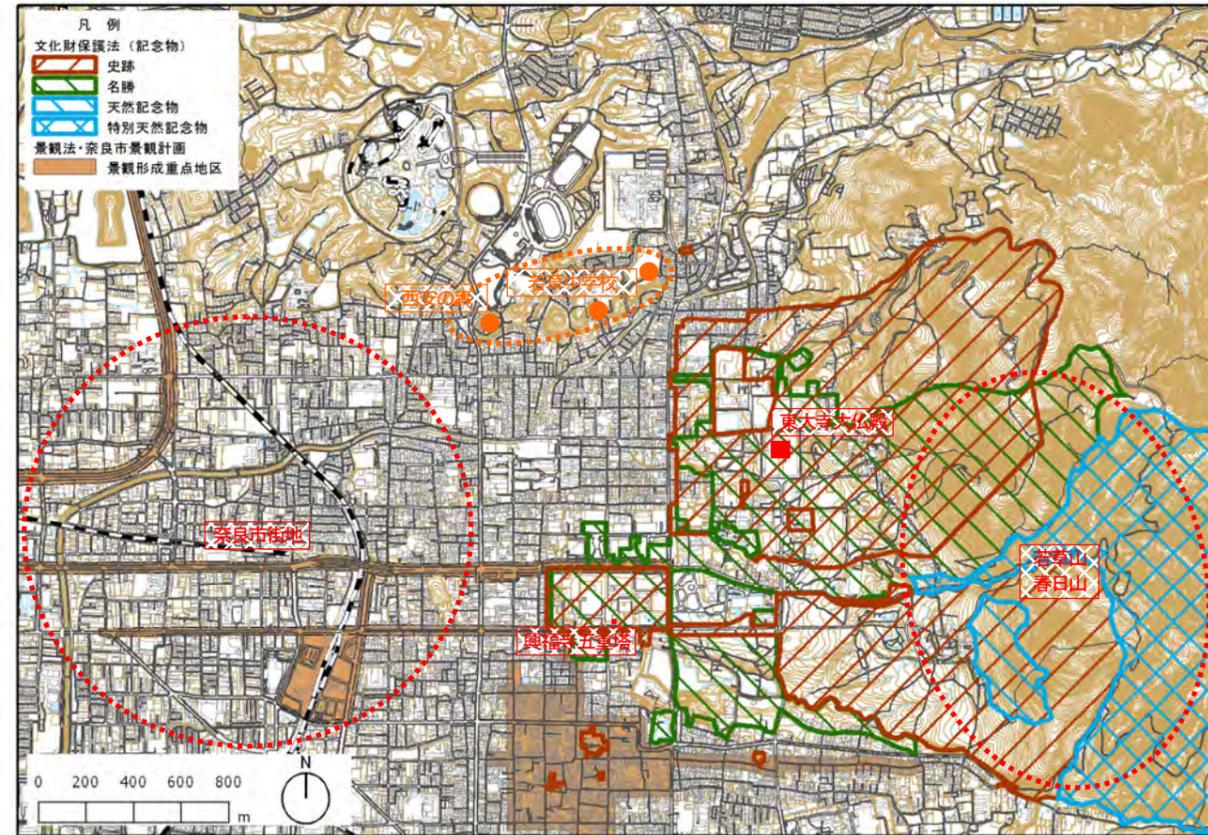
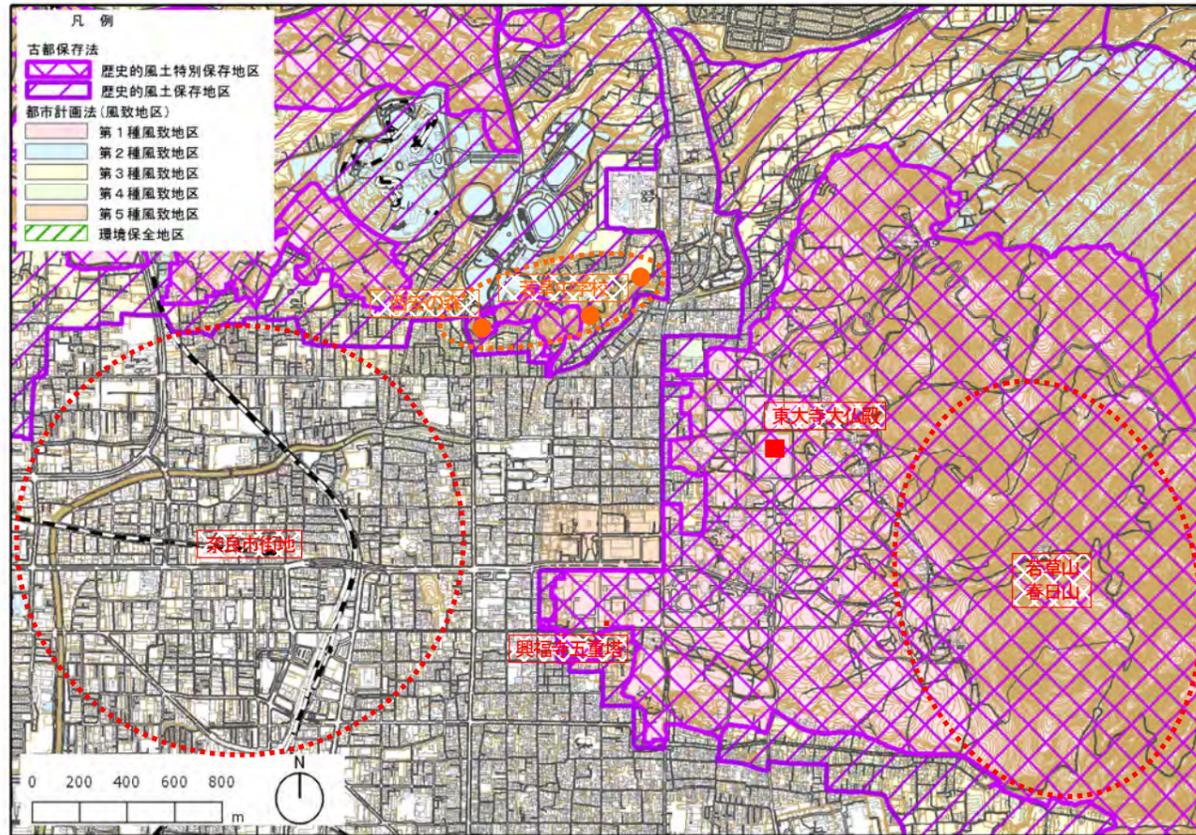
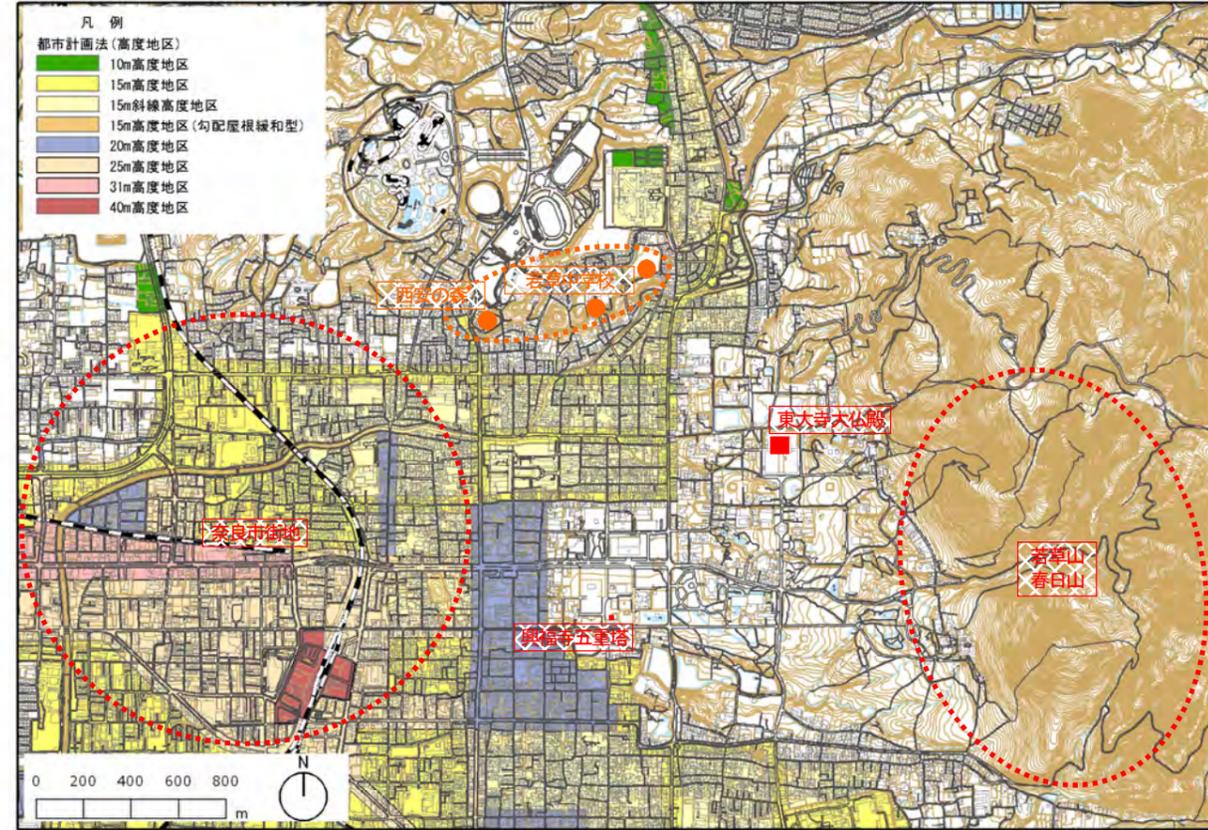
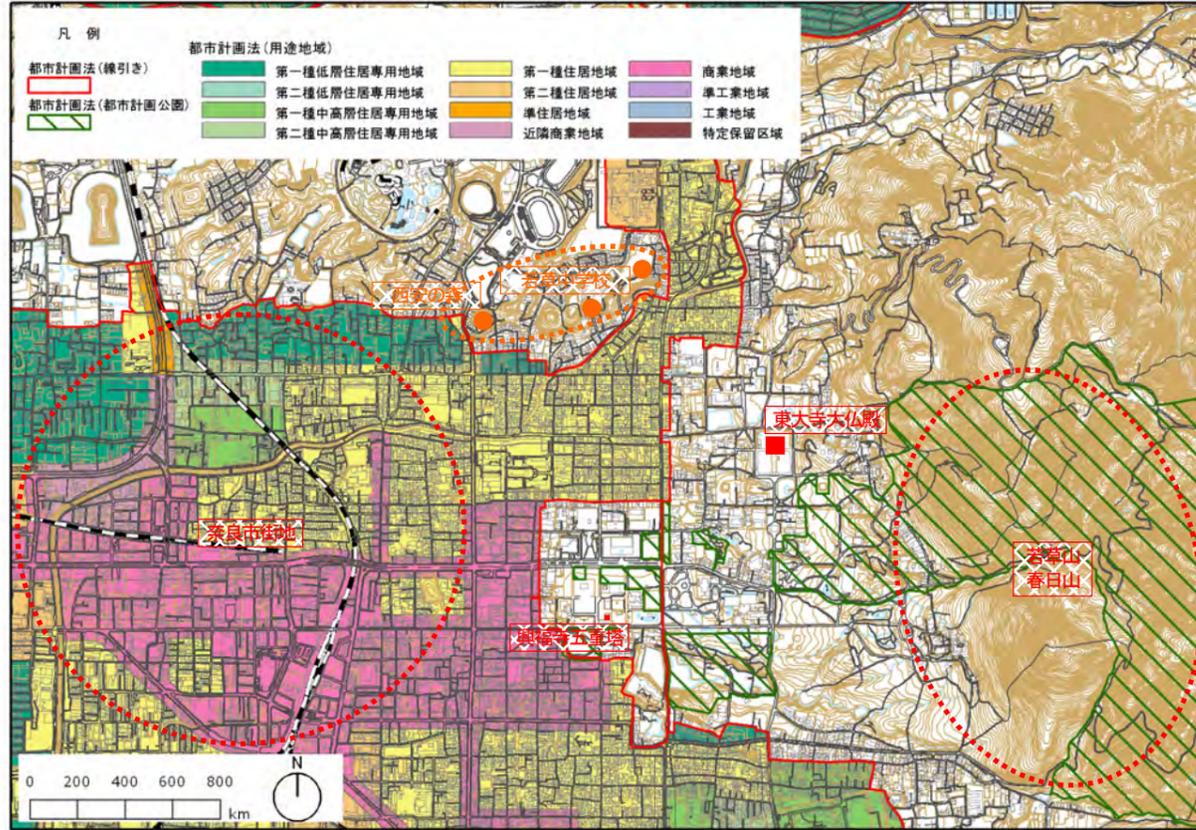
No. 19 奈良阪（県道木津横田線）から東大寺大仏殿への眺望		類	型	V：導入路・玄関口型眺望景観	
 		視 点	場	奈良阪（県道木津横田線）	
		視 対 象	東大寺大仏殿		
		眺 望 空 間	近 景	県道木津横田線の町並み、市街地	
			中 景	東大寺大仏殿、樹林、東大寺境内	
	遠 景	市街地、(空)			
目に見える景観の特性		沿道の街路樹や樹林が東大寺大仏殿への軸線をつくりだす。高位からの見下ろしながら南進するなかで、徐々に大きくなる東大寺大仏殿の大屋根を象徴的に望むことができる。			
心で感じる景観の特性	歴史的背景	<p>東大寺大仏殿 正式には東大寺金堂という。奈良時代の大仏殿は、治承4年（1180）の平重衡などの南都焼討によって焼失している。建久6年（1195）の再建時の落慶法要には源頼朝なども列席した。永禄10年（1567）の三好・松永の戦いによって再度焼失したが、公慶上人の尽力や徳川綱吉の寄進などにより、宝永6年（1709）に落慶した。これが現在の大仏殿であり、現在でも世界最大級の木造建築である。</p>			
	民俗文化・生活文化 文学・芸術作品 説話・伝承	<p>東大寺大仏殿 「平家物語」では、治承4年（1181）の平重衡などの南都焼討によって東大寺大仏殿が焼失した様子が描かれており、東大寺大仏殿のわが国の歴史のなかでの重要性を物語る。 「大仏殿の二階の上には千余人のぼりあがり、敵の続くをのぼせじと、橋をばひいてけり。猛火はまさしうおしかけたり。おめきさけぶ声、焦熱・大焦熱・無間阿毘の炎の底の罪人も、これにはすぎじとぞみえし」 また、和辻哲郎は「古寺巡礼」のなかで以下のように記している。 「大仏殿の屋根は空と同じ蒼い色で、ただこころもち錆がある。それが朧ろに、空に融け入るように、ふうわりと浮かんでいる。その両端の鴟尾のほのかに、実にほのかに、淡い金色を放っているのが、拝みたいほどありがたく感じられた。」</p>			
	眺望景観の構成要素の関係	—			
情報としての景観の特性	名所案内記 絵 図 等	<p>東大寺大仏殿 「大和国細見図」（享保20年（1735））、「大和名所図会巻ノ一」（寛政3年（1791））、「いんばんや絵図」（明治3～15年（1870～1882））、「奈良名勝案内図」（大正14年（1925））など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。 若草山 「大和名所図会巻ノ一」（寛政3年（1791））、「奈良名所東山一覽之図」（幕末頃）、「いんばんや絵図」（明治3～15年（1870～1882））、「奈良名所細見図」（明治24年（1891））など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。</p>			
	インベントリー	<p>東大寺 世界遺産として多くの人々に知られており、南都七大寺のひとつでもある。また、奈良は、「わたしの旅100選」や「日本遺産・百選」「新日本観光地百選」などに選定されており、東大寺はその多くで構成要素のひとつとしてあげられる。</p>			
守るための視点		<p>東大寺大仏殿は国宝に指定され、保護されているため、視対象については、新たな保全施策は求められない。 地形的特徴から東大寺大仏殿を見下ろす構成となるため、現行の15m斜線高度地区により、東大寺大仏殿への視線を遮る高さの建築物が建てられるおそれはない。都市公園の区域内においても、視対象への眺望の前景に映りこむ高さ・規模の都市公園施設の建設は行わないこと、また、都市公園施設の整備等の際は、形態・意匠等への配慮が求められる。 道路上への案内表示等の道路施設の設置にあたっては、東大寺大仏殿への眺めに十分に配慮することが求められる。 軸線を形成する沿道の建築物等の形態意匠について、現在は制限が設けられておらず、歴史的景観にそぐわない洋風の建築物等が建ち並ぶおそれがあるため、形態意匠等の誘導施策が求められる。沿道の住民と連携した取り組みを進めるなかで、良好な生活空間の形成と併せて沿道の桜並木や樹林、庭木等の適切な管理を行い、自然豊かな軸線を保全していくことが求められる。 （施策の方向性）A-3, C-1, C-2, E-2, E-3</p>			
整えるための視点		<p>視界に電線類が映り込むため、電線類の美化等が求められる。 沿道の建築物は基本的に和風の趣あるものであるが、違和感のある建築物もみられるため、修景が求められる。 （施策の方向性）F-3, H-1</p>			
活かすための視点		<p>公募により推薦された眺望景観であるとともに、京都方面からの奈良への導入路として、多くの人々が目にする眺望景観として、十分に認知されている眺望景観である。 （施策の方向性）K-1</p>			

法的位置付け



No. 20 西安の森、若草中学校付近から東大寺大仏殿、興福寺五重塔、若草山等の山並みへの眺望		類	型	II：広がり型眺望景観	
		視 点	場	西安の森、若草中学校付近	
		視 対 象	東大寺大仏殿、若草山、興福寺五重塔		
目に見える景観の特性		眺望空間	近 景	市街地	
			中 景	市街地、東大寺大仏殿、東大寺境内、若草山、興福寺五重塔、興福寺境内	
			遠 景	市街地、御蓋山や春日山等の山並み	
目に見える景観の特性		<p>視点場が高台に位置していることから、近景に広がる市街地の屋根並みの遠方に若草山と東大寺大仏殿をセットで望むことができる。若草山の下には東大寺二月堂が見え、若草山から連なる御蓋山、春日山、高円山などの山並み、南側には東大寺南大門や興福寺五重塔も望むことができる。</p>		<p>東大寺大仏殿は国宝に指定され、保護されており、また、若草山は、名勝奈良公園、史跡東大寺旧境内、第一種風致地区や歴史的風土特別保存地区等により保護されているため、視対象については、新たな保全施策は求められない。</p> <p>視点場から視対象の間の眺望空間の大半は第一種住居地域、15m高度地区又は15m斜線高度地区であり、視対象への眺望を遮る高さの建築物等が建てられるおそれがあるため、高さの制限が求められる。また、視対象への眺望の前景や背景に映り込む高さ・規模の都市公園施設の建設は行わないこと、また、都市公園施設の整備等の際は、形態・意匠等への配慮が求められる。</p> <p>建築物等の形態意匠について、特に制限が設けられていないため、視点場から視対象の間の瓦屋根の広がりや失われていくおそれがある。瓦を基調とした屋根並みの形成に向けた景観形成基準の設定、景観規制・誘導が求められる。</p> <p>(施策の方向性) A-1, A-2, A-3, C-1, E-3</p>	
心で感じる景観の特性		守るための視点		<p>家屋のアンテナや電線類、県庁、NHK、建物上部の塔屋が視界に映り込む。また、橙色や赤色の屋根や緩勾配のスレート葺屋根が、瓦屋根の屋根並みのなかで突出して見える。建築物や工作物の修景や電線類の美化等が求められる。</p> <p>(施策の方向性) F-1, F-2, F-3, H-1</p>	
民俗文化・生活文化 文学・芸術作品 説話・伝承		整えるための視点			
眺望景観の構成要素の関係		—			
情報としての景観の特性		活かすための視点		<p>公募により推薦された眺望景観であるが、多くの観光客が訪れる場所とはなっていない。周囲の住宅市街地や文教施設等との関係を踏まえた上で、周辺地域に立地する歴史文化遺産と合わせた観光ルートとしての情報発信の検討が求められる。</p> <p>視点場としての整備はされていないため、西安の森の視点場としての整備の検討が求められる。</p> <p>(施策の方向性) J-1, K-1</p>	
名所案内記 絵 図 等		<p>東大寺大仏殿 「大和国細見図」(享保20年(1735))、「大和名所図会巻ノ一」(寛政3年(1791))、「いんばんや絵図」(明治3～15年(1870～1882))、「奈良名勝案内図」(大正14年(1925))など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。</p> <p>若草山 「大和名所図会巻ノ一」(寛政3年(1791))、「奈良名所東山一覽之図」(幕末頃)、「いんばんや絵図」(明治3～15年(1870～1882))、「奈良名所細見図」(明治24年(1891))など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。</p>		<p>東大寺 世界遺産として多くの人々に知られており、南都七大寺のひとつでもある。また、奈良は、「わたしの旅100選」や「日本遺産・百選」「新日本観光地百選」などに選定されており、東大寺はその多くで構成要素のひとつとしてあげられる。</p> <p>若草山 若草山を含む奈良公園は、「日本の歴史公園100選」「日本の都市公園100選」に選定されている。また、若草山の山焼きは「人と自然が織りなす日本の風景百選」に選定されている。</p>	
インベントリー					

法的位置付け



No. 21 一条通から転害門への眺望		類	型	III：見通し型眺望景観	
		視 点	場	一条通（やすらぎの道以東）、法蓮橋	
		視 対 象	転害門、聖武天皇陵、若草山		
		眺望空間	近 景	一条通の町並み、佐保川、聖武天皇陵、（転害門）	
中 景	転害門、若草山				
		遠 景	北部～東部の山並み		
目に見える景観の特性		<p>一条通の沿道に点在して残る町家等がその他の建築物と一体となって軸線をつくりだし、アイストップとなる転害門が象徴的に映る。通りの南東方向には、沿道の建築物の隙間や上部に若草山を垣間見ることができる。 法蓮橋では、一条通～佐保川～聖武天皇陵～山並み等への360度の広がりのある眺望景観が形成されている。</p>			
心で感じる景観の特性	歴史的背景	<p>一条通 かつての平城京の一条南大路であり、平城京の北東端にあたる。 法蓮橋 高欄は花崗岩を削ってつくられたもので、親柱には、昭和6年に尾田組により竣工したことが記されている。 転害門 一条通の東端終点にあたる。治承4年（1180）の平重衡の兵火、永禄10年（1567）の三好・松永の戦いの2回の戦火にも焼け残った建物のひとつで、天平の東大寺の伽藍建築の遺構である。三間一戸八脚門の形式をもつ堂々とした門で、鎌倉時代の修理で改変されているが、基本的には奈良時代の建物である。国宝に指定されている。 聖武天皇陵 佐保山南陵とも呼ばれ、御陵前には眉間寺という古代創立の寺院があったとされている。多聞城の西南隅にある光明皇后陵と並んである。松永久秀による多聞城の築城等により付近一帯は大きく破壊されたといわれる。 若草山 山容が菅笠の形をし、3つの嶺が重なったようにみえることから、通俗的に「三笠山」とも呼ばれてきた。若草山の名は「伊勢物語」で在原業平が「むさし野はけふはな焼きそ若草のつまもこもれり我もこもれり」と歌ったことに由来するとも言われている。東大寺山塚四至図によると、元々は樹木の茂った山であったことがわかる。山頂には前方後円墳である史跡鶯塚古墳があり、鶯山とも呼ばれる。</p>			
	民俗文化・生活文化 文学・芸術作品 説話・伝承	<p>一条通 東大寺の転害門から法華寺にいたる一条通は佐保路と呼ばれる。佐保路には、貴族たちが豪邸をつらね、大伴坂上郎女、大伴家持、笠郎女、藤原麻呂など、万葉集に鮮やかな感性を記した歌人たちが行き来した道である。 法蓮橋 江戸時代、多聞屋敷（現在の多門町）の与力・同心へ年間千石の米が運ばれたため、千石橋と呼ばれていたという。 転害門 名前の由来は、「大仏殿の西北にあり吉祥の位置で害を転ずる意から」、「手向山八幡が宇佐から東大寺境内に勧請された時、この門から入られる時に殺生を禁じられたため」、「手向山八幡宮のお祭の時、この門から乱声が奉せられたため」、「大仏開眼の導師を務めるために婆羅門僧正が東大寺に来られる時、この門で行基菩薩が待ち受け、手招きされた様子が手で物を搔く（手搔→転害）ように見えたため」とも言われる。元は「碾磑」という字が使われ近くに美しい石臼があったとされる。平城京の佐保路に面したことから「佐保路門」とも、源頼朝を暗殺しようとして平景清がひそんだとの伝説から「景清門」ともいわれる。小野小町が年老いて零落し、乞食ようになって放浪していた時、この門でも寝泊まりしていたことがあるとも伝えられている。 若草山 毎年1月に、「若草山の山焼き」が行なわれる。若草山の山焼きの起源には、若草山山頂にある鶯塚古墳の鎮魂のためという説や若草山を年内もしくは翌年の1月頃までに焼かなければ不祥事が起こると考えられていたためという説、東大寺と興福寺との領地争いがもとであるという説、春の芽生えをよくするための原始的な野焼きの遺風を伝えたものであるという説などの諸説がある。 春季になると一帯では谷間に鶯の鳴く声が聞こえたことから以下の歌が歌われている。 「今もなほ 妻やこもれる 春日野の 若草山に うぐひすの鳴く」（中務卿親王「夫木抄」） 「すたつとも みゑぬものから 鶯の 山のいろいろ ふみも見るかな」（宇津保物語）</p>			
	眺望景観の構成要素の関 係	<p>聖武天皇陵と一条通、転害門（東大寺） 毎年5月3日に山陵祭が執り行われる。祭りでは、東大寺一山の僧侶が大仏殿を出発し、一列となり大仏池の畔を経て転害門をくぐり、一条通を西に進み、聖武天皇陵へ向かう。御陵の遥拝所で読経、献茶などの法要の後、隣の光明皇后陵を参拝。その後再び大仏殿に戻り、裏千家による献茶式が行われ、終了後は抹茶がふるまわれる。</p>			
情報としての景観の特性	名所案内記 絵 図 等	<p>転害門 「大和名所図会巻ノ一」（寛政3年（1791））に「景清門」とみられ、明治以降、「奈良名勝全図」（明治31年（1898））、「奈良名勝旅客便覧」（明治40年（1907））などにも紹介されている。 若草山 「大和名所図会巻ノ一」（寛政3年（1791））、「奈良名所東山一覽之図」（幕末頃）、「いんぱんや絵図」（明治3～15年（1870～1882））、「奈良名所細見図」（明治24年（1891））など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。</p>			
	インベントリー	<p>若草山 若草山を含む奈良公園は、「日本の歴史公園100選」「日本の都市公園100選」に選定されている。また、若草山の山焼きは「人と自然が織りなす日本の風景百選」に選定されている。</p>			
		守るための視点	<p>転害門は国宝として、若草山は、名勝奈良公園、史跡東大寺旧境内、第一種風致地区や歴史的風土特別保存地区等により保護されており、聖武天皇陵は陵墓として宮内庁に管理されるとともに、歴史的風土特別保存地区として保護されているため、視対象については、新たな保全施策は求められない。 一条通り（やすらぎの道以東）のうち、やすらぎの道から佐保川の区間北側は、第一種低層住居専用地域、第三種風致地区（ゾーン8）に指定されている。また、その他の区域は、第一種住居地域、15m高度地区に指定されている。建築物等の形態意匠の規制は風致地区の区域のみである。沿道の建築物や工作物、屋外広告物等の色彩や形態意匠等に配慮し、転害門及び山並みへの良好な軸線を保全・形成していくことが求められる。 沿道には町家等の歴史的建造物も点在して残り、老朽化等による更新も見られはじめているため、保全のための措置が求められる。 （施策の方向性）A-3, C-1, D-1</p>		
		整えるための視点	<p>周囲の歴史的な町並みと不調和な屋外広告物や建築物等が散見され、修景が求められる。 電線類が張り巡らされ、視界に電線類が映りこみ、眺望景観の質を低下させている。電線類の美化等が求められる。 （施策の方向性）F-3, H-1</p>		
		活かすための視点	<p>眺望景観としての認識は低く、観光資源としての情報発信に乏しかったため、積極的な情報発信や観光ルートの設定等が求められる。 交通量が多く危険であるため、観光資源等として活用していくためには、交通安全面での対策が求められる。 （施策の方向性）J-1, K-1, L-1</p>		

法的 位置 付け

